

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第27回:岸田総理東南アジア・欧州歴訪(4/29~5/6)を どう見るか

2022年5月26日配信

【ポイント】

- 連休中の岸田総理東南アジア・欧州歴訪では、共通主要話題はウクライナと中国・北朝鮮を含むアジアの安保だが、隠れた成果は、東南アジア・欧州諸国との安全保障協力の進展

【本文】

- 岸田総理は4月29日~5月6日インドネシア、ベトナム、タイ、イタリア、バチカン、英国を歴訪
 - ・ 就任後4度目の外遊。訪問先の選択は重要性に呼応(イタリア・ドラギ首相とは初会談)
 - ・ 二国間訪問としては、インド、カンボジア歴訪(3月19日~21日)に次ぐ2度目
- 共通主要話題はウクライナと中国・北朝鮮を含むアジア安保との関連+FOIP*
 - ・ 東南アジアでは、ロシアに厳しい態度を取ること+ウクライナ支援を働きかけ
 - ・ 対口非難総会決議にインドネシア、タイは賛成、ベトナムは棄権。3カ国とも制裁不参加
 - ・ ロシア原油輸入を表明しているインドネシアでは、ジョコウィ大統領と1対1で30分会談
 - ・ 今次訪問に合わせ、ベトナム、タイが対ウクライナ支援を発表したのは一定の成果
 - ・ 一方、対口関係では各国それぞれの歴史などが在ることを率直に認めたのは現実的
- 最終訪問地英国のシティで行った演説では、幾つかの新政策を表明
 - ・ 近々、コロナ水際対策をG7並みに緩和
 - ・ 今後10年間で官民協調で150兆円のグリーン・デジタル関連投資実現
 - ・ 再生可能エネルギーに加え「安全を確保した原子炉の有効活用」をグリーン対策の柱に
- 一方、隠れた成果は東南アジア諸国+欧州諸国との安保協力の着実な進展
 - ・ インドネシア(含巡視船供与検討)、ベトナムでは、海洋保安能力強化支援拡充をコミット。サイバー面での協力強化も表明。
 - ・ タイでは、「日タイ防衛装備品・技術移転協定」署名を歓迎。今後の武器供与等の途開く。
 - ・ アジアでは、豪、印、フィリピン、ベトナム、マレーシア、インドネシアに次ぐ7カ国目
 - ・ 但し、これはスタートであり、今後の具体化が重要
 - ・ 豪、インドとは共同研究等を実施。
 - 一方、完成装備品移転は対フィリピン警戒管制レーダー(20年8月)のみ

- ・英国では、「日英円滑化協定」大枠合意
- ・「円滑化協定」とは、両国軍隊の他国での活動を容易にするもの。軍隊相互訪問と頻繁な共同訓練実施のために有効。現時点では豪州(既署名、未発効)のみ。
- ・一方、本年4月にはフィリピンとも締結検討に合意

■近年アジア・欧州重点国との安保協力は強化・重層化。FOIP具体化の例として要注目。

【重点国との2+2会合、各種協定締結状況】

	2+2	防衛装備品等協定	情報保護協定	ACSA*	円滑化協定
豪州	○	○	○	○	△
インド	○	○	○	○	
インドネシア	○	○			
フィリピン	○	○			検討合意
ベトナム		○			
タイ		○			
マレーシア		○			
英国	○	○	○	○	大枠合意
フランス	○	○	○	○	
ドイツ	○	○	○		
イタリア		○	○		

* FOIP; 自由で開かれたインド太平洋

* ACSA; 燃料や整備等の役務を相互に提供し易くする協定。共同訓練円滑化に大いに資する

(以上)

りそな総合研究所 顧問 石井正文

問い合わせ先: りそな総合研究所 アジア室 石橋修三

メールアドレス: shuzo.a.ishibashi@rri.co.jp